

# 帯広市（北海道ブロック）

【2期 計画期間 25年4月～30年3月】

明治～：伊豆（静岡県）から入植し現在の十勝の基幹産業である農業地として開拓。明治38年から40年にかけて、道央（札幌方面）と道東（釧路方面）とを結ぶ鉄道が開通。更なる発展を遂げる。  
昭和～：人口が10万人を超え、十勝・日高管内における唯一の市として牽引している。

## 【1期計画の概要】

- 計画期間は19年8月～24年3月。郊外の発展により中心市街地が空洞化したことを受け、①居住人口の増、②通行量（休日）の増、③活動拠点施設の利用率の向上（都市機能の充実）を目指した。

## 【中心市街地の変化】

- 1期計画で商店街のアーケードを改修し、また、歩行者天国事業をはじめ各種ソフト事業が順調に実施されたことから休日の通行量については回復傾向。一方で、平日の通行量は依然として厳しい。
- 経済情勢の変化等により1期計画期間中に住宅を供給する事業が実施出来なかったため、居住人口は1期計画策定時より減少。
- 活動拠点施設の利用率は向上し、都市機能の充実は図られた。



## 【目指す中心市街地像】

- **全ての世代が暮らし交流する、既存ストックを活用した賑わいと魅力ある街**

## 【1期計画の目標等】

目標	指標	計画策定時 (H18FY)	目標値 (H23FY)	最新値
住実ゾーンの形成	街なか居住者数	2,892人	3,650人	2,817人 (H23FY)
買適ゾーンの形成	歩行者通行量 (休日)	14,367人	19,000人	25,080人 (H24FY)
観動ゾーンの形成	活動拠点施設の利用率	72.0%	76.4%	77.9% (H23FY)

## 【2期計画の目標等】

目標	指標	現況値	目標値 (H29FY)
街なか居住の促進により、居住人口の増を図る。	街なか居住者数	2,817人 (H23FY)	3,100人
既存ストックの活用によるにぎわい創出と魅力づくりにより、来街者、歩行者の増を図る。	歩行者通行量(平日)	22,905人 (H24FY)	24,000人

■街なか居住の促進により、居住人口の増を図る。

⇒ ①開<sup>かいこう</sup>広団地再整備事業、②西2・9西地区優良建築物等整備事業 等

■既存ストックの活用によるにぎわい創出と魅力づくりにより、来街者、歩行者の増を図る。

⇒ ③帯広まちなか歩行者天国事業、④フードバレーとかちマラソン大会 等

